

建築と社会

Architecture and Society

日本建築協会
2013 No.1093

4

特集：第19回 会員作品“私の空間作法”



主催 日本建築協会

平成25年度 第59回工高生デザインコンクール

設計課題 クラブハウス

課題の趣旨

クラブハウスとは、地域活動や学校のクラブ活動の拠点となる施設であり、様々な立地条件の中、活動を支える施設として建てられています。

それらのクラブハウスに求められる空間と機能は、活動の目的や使用方法、用途によって様々であり、創造的な施設となる可能性を秘めています。

現在、多くのクラブハウスと称する



施設は、単一的な機能にとらわれ、必要最小限な機能のみを持つものがほとんどですが、近年では、多目的な使用に応じた新しい機能を持つ施設も増えつつあります。

本課題では、クラブハウスの新たな可能性を見出し活動の様々な局面を支援する、魅力的な空間や機能の提案を期待します。

設計条件

1. 敷地 敷地の大きさ形状とも自由とし、具体的な敷地を設定する。
2. 規模 延べ面積は500㎡以内とする。構造・階数は自由とする。
3. 所要室 使用方法を想定し、必要と思われるスペースを適宜設ける。

所要図等

1. 敷地周辺図 縮尺自由（敷地周辺の環境や状況を示す。）
2. 配置図 縮尺自由（周辺の状況、道路との関係、方位などを明示する。）
3. 平面図 縮尺1：100
4. 立面図 縮尺1：100（2面以上）
5. 断面図 縮尺1：100（1面以上）
6. 透視図 設計意図が最も反映するところを表現する。着色仕上げ。模型写真に代えてもよい。
7. 設計説明 設計意図を表すサブタイトルを必ずつけること。設計趣旨（建物の使い方、立地、周囲の状況などについての説明を含む。）
8. 建築概要 敷地面積、建築物の構造・階数、各階床面積および延べ面積などを示す。
9. その他 平面図、断面図には、室名・寸法を記入する。その他、必要とされる手書きの図面は加えてもよい。

応募条件

1. 用紙 用紙はケント紙などの厚手の製図用紙A1判（594mm×841mm）1枚を使用し、その中にすべての要求図面を直接描くこと。裏打ち用紙などの使用は認めない。
2. 仕上げ 図面は手書きによる黒色鉛筆仕上げによる。ただし、色鉛筆による着色は可。透視図は彩色用紙を用い、図面に貼り付けてもよい。透視図や模型写真以外のものを貼り付けることや、図面のパネル化、上記以外の仕上げは禁止する。
3. 応募資格 平成25年4月現在、高等学校在籍の生徒で、個人または共同（3人まで）で制作したものとする。

4. その他 用紙や図面には、学校名・学年・氏名など応募者がわかるような表示は行わないこと。
※以上の条件に違反した応募作品は、失格とすることがある。

応募方法

1. 応募用紙に、学校名・所在地・学年・氏名を記入の上、封筒に入れ密封し、図面の裏に貼りつけること。（応募用紙が足りない場合は当会HP（<http://www.aaj.or.jp>）からダウンロードして下さい。）
2. 共同制作で応募する者は、1. の応募用紙に連名のうえ、代表者に丸印をつけること。
3. 応募作品は学校を通じて提出すること。

締切期日

平成25年9月30日（月）の消印、あるいは受付印のあるものをもって締め切る。

送付先

〒540-6591 大阪市中央区大手前1丁目7番31号 OMMビル7階
一般社団法人 日本建築協会 第59回工高生デザインコンクール係
TEL.06-6946-6981 FAX.06-6946-6984
E-mail : h-katayama@aaj.or.jp URL : <http://www.aaj.or.jp>

入選作品の数および賞

1. 入選作品は10点とする。
 2. 入選作品のうちから最優秀賞1点、優秀賞2点を選ぶ。
 3. 最優秀賞・優秀賞作品には、賞状および表彰盾を贈り、その他の入選作品には、賞状を贈る。
 4. 応募者全員に参加賞を贈る。
- ※入選作品の著作権は本会に属する。

入選者発表および表彰式

審査の結果は、各学校ならびに本人に通知するほか、本会の会誌「建築と社会」11月号に発表し、入選作品は翌年1月号に掲載する。表彰式は、平成25年11月9日（土）に行う。

審査員（50音順・敬称略）

委員長 内海 慎介／榊竹中工務店大阪本店設計本部プリンシパルアーキテクト
委員 岩田 章吾／武庫川女子大学生活環境学科教授
上原 徹／㈱日建設計設計部門設計部長
上羽 一輝／㈱東畑建築事務所大阪事務所設計部部長
奥田 英雄／㈱大林組大阪本店建築事業部建築設計部部長

木下 光／関西大学環境都市工学部建築学科准教授
所 千夏／アトリエCK代表
橋本 修／㈱昭和設計建築設計部部長
南浦 琢磨／㈱安井建築設計事務所設計部主幹
矢田 朝士／ATELIER・ASH主宰

このコンクールは、高校生の設計技能の向上を目的とし、昭和30年より毎年テーマを変えて開催しています。

一般社団法人日本建築協会

として新たにスタートしました

日本建築協会は、平成25年3月19日付けで内閣総理大臣より一般社団法人への移行が認可され、4月1日付けで、「社団法人日本建築協会」から「一般社団法人日本建築協会」へと新たなスタートをきることになりました。

これを機会にこれまで以上に会員相互の研鑽のみならず、建築を通じて社会の発展と文化の向上に貢献する役割を引続き果たしてまいりますので、今後ともご支援、ご鞭撻を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

一般社団法人 日本建築協会
会 長 香西 喜八郎

※法令にもとづき法人として同一性をもって存続し、旧法人である「社団法人日本建築協会」のすべての権利義務は新法人に継承されます。「社団法人日本建築協会」名義の契約等並びに発行された請求書、証明書等は特段の手続きをとることなく有効となります。また、今後総会につきましては、定款にもとづき年1回の開催となることを併せてお知らせします。

日本建築協会東海支部主催
見学会のお知らせ式年遷宮の年の
伊勢神宮（外宮・
内宮）を訪ねて

式年遷宮で最も重要な「遷御」の儀が、内宮 10月2日・外宮 同5日に正式に決まりました。

平成17年の山口祭からはじまり、8年間のクライマックスである「遷御」に向かう伊勢神宮を訪ねる旅を企画しました。

■日時：2013年 5月19日（日）

■行程：7：30名古屋駅西口集合
（貸切バスにて移動）⇒

9：30 外宮着 ⇒ 外宮参拝

⇒ 神楽殿 ⇒ せんぐう館

⇒ 11：30 昼食

（すし久：てこね寿司）

⇒ おかげ横丁

⇒ 13：30 宇治橋

⇒ 内宮正宮 ⇒ 荒祭宮

⇒ 神楽殿 ⇒ 参集殿

⇒ 16：30 集合

⇒ 18：30 名古屋駅着

※どちらかの神楽殿で御神楽を見る予定です。

※到着時間、行程は交通事情、その他の事情などにより変わる場合があります。

■募集人員：40名

■参加費用：

会員・団体会員：9,000円

一般：9,500円

学生：9,000円

昼食代、御神楽料、入場料、参考資料代込み

■申込締切：5月10日（金）

申し込みはFAXまたはメールにて、氏名、メールアドレス、電話番号などの連絡先、会員、非会員、学生の別などお知らせください。

■参加申し込み・問い合わせ先：

（一社）日本建築協会東海支部

TEL.052-261-1451

FAX.052-261-0251

E-mail：info@aaj-tokai.jp

詳しくはHPをご覧ください

http://www.aaj-tokai.jp/



内宮 正宮

式年遷宮記念 せんぐう館
設計：栗生 明+栗生総合計画事務所

内宮 宇治橋

参加申し込み書

お名前	所 属
メールアドレス	連絡先 (携帯電話)
当日配布予定の参加メンバー表に、お名前と所属を記載する旨の御許可 ☐ 同意する ☐ 同意しない	

※個人情報、この見学会の連絡のためにお伺いするものであり、他の目的には使用しません。

第8回学生のための見学会 ～ショールーム巡り～ 「(株)ユニオン」 と 「(株)ダイナワン」

申込はFAXかE-mailで
FAX 06-6946-6984
E-mail : h-katayama@aaj.or.jp

学生のための見学会とは、建築及びデザインを学ぶ学生のために、進行中の建築現場や工場を紹介し、見学の機会を提供するものです。大学などの授業だけでは、建築現場や工場での製品が作られる過程やものづくりのポイントを伝えることは困難な面があります。そこで、日本建築協会では、教育現場からの要望を取り入れ、その要望を橋渡しする役目を担うべきと考え、この企画を開催しています。

第8弾の今回は、大阪市内のショールームの見学を企画しました。ドアハンドルの「ユニオン」と株LIXILの100%出資子会社の「ダイナワン」です。「ユニオン」では、オーダーハンドルのデザインから製作過程を見ていただきます。「ダイナワン」では、意匠性の高いタイル製品の見学とタイルができるまでの工程を、ビデオを見ながらレクチャーしていただきます。教室内の議論では決して学ぶことが出来ない制作の現実を、是非見学してみてください。

日 時 2013年 5月22日(水)
13:30～16:30
見学先 「(株)ユニオン」
13:30～14:30
大阪市西区南堀江2-13-22
「(株)ダイナワン」
15:00～16:30
大阪市西区新町1-7-1
LIXIL四ツ橋ビル13F東
集 合 「(株)ユニオン」ショールーム前
定 員 30名
参加費 500円(保険代、資料代)
申 込 申込用紙に記入の上、FAX
またはE-mailで。
FAX 06-6946-6984
E-mail : h-katayama@aaj.or.jp
(社)日本建築協会編集事業課
〒540-6591
大阪市中央区大手前1-7-31
TEL.06-6946-6981
締切り 2013年 5月10日(金)

集合場所：(株)ユニオン



地下鉄四つ橋線四ツ橋駅 6号出口より西へ徒歩 8 分
地下鉄千日前線西長堀駅 6号出口より東へ徒歩 6 分
地下鉄長堀鶴見緑地線西大橋駅 3号出口より南へ徒歩 6 分

名称	「(株)ユニオン」・「(株)ダイナワン」ショールーム見学会
学校名・学部・学科	
引率者職名・氏名	おられない場合は記入不要
学生氏名・学年	
学生氏名・学年	
学生氏名・学年	
参加通知書送付先住所 TEL・E-mail	〒 TEL E-mail

チラシ封入サービスのご案内

会員限定

貴社の広告チラシを「建築と社会」発送と“同封”しませんか。
チラシをご提供下さい。

料金 1回につき

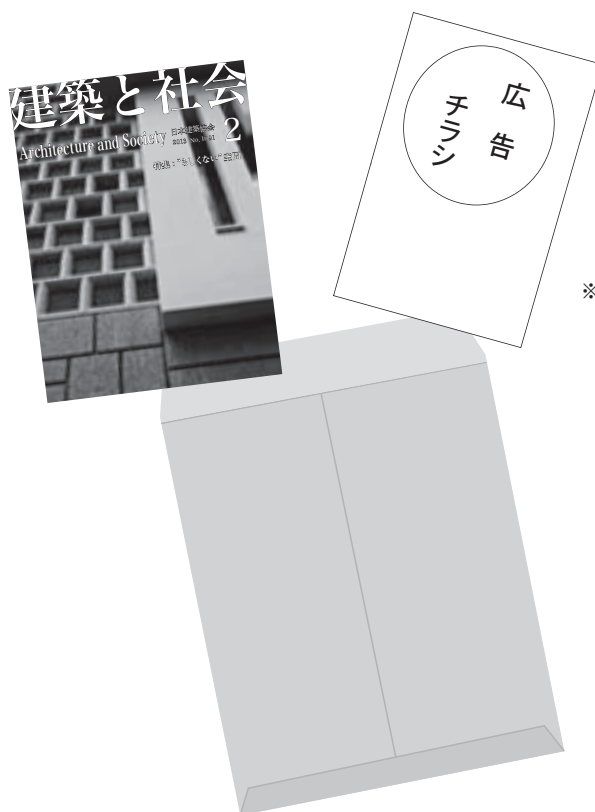
20,000円 (税別)

当協会でチラシをプリント（カラー片面）した場合20円／枚必要です。

申し込み方法：申込用紙にご記入いただきFAXまたはE-mailでお送り下さい。

お問合せは（一社）日本建築協会（担当／片山）まで

TEL.06-6946-6981 FAX.06-6946-6984 E-mail:h-katayama@aaj.or.jp



※チラシサイズ：A4版
パンフレット：20頁程度迄

申込用紙 きりとり

会社名		
ご連絡先 (住所・担当者名・部署名)	住所 担当者名	部署名
ご連絡先 電話番号・E-mail	電話番号 E-mail：	

建築と社会

Architecture and Society

4 | NO.1093 | 2013
日本建築協会

■特集予告

- 5月号／コミュニティの“かたち”
～人と人とのつながりを再考する～
- 6月号／無駄から見える節電

今月の表紙

国立京都国際会館

設計：大谷幸夫
竣工：1966年
所 在：京都市左京区



建築の表情は小口に集約されている。稲架（はぎ）は、刈り取られた稲穂を木や竹組に掛けて構成される。一方の建築は、プレキャストパネルを斜柱に立て掛けて、バルコニーや樋を伴って妻側へ突出する。田畑において雨露は垂れ流せばよいが、建築ではそうは行かない。樋が、種々の要素を流れた雨を最後に受け、最も遠くへ張出す。過酷な環境に置かれた雨樋は、荒々しい現場打ちの表情を与えられ、建築に流れた歳月を物語る。

（大西広朗／東畑建築事務所）

デザイン：嘉村知紀（東出清彦写真事務所）
撮影：東出尚子（東出清彦写真事務所）

J o u r n a l o f t h e A r c h i t e c t u r a l A s s o c i a t i o n o f J a p a n

特集●第19回会員作品“私の空間作法”

素材力の表現●西森史裕	8
オフィスビルの中間領域●田中啓文	9
展望リビングのある家●森村政悦	10
インタラクティブに対話するホール●藤城義文	11
集いを楽しむ●新居照和&ヴァサンティ	12
Harvest一唐ヶ谷の家●水谷俊博+水谷玲子	13
京町家のDNA●早崎伸一+平居 直+平尾和洋	14
Cosy House●稲垣和江	15
都心の老人ホーム●中尾勝悦	16
GREEN WORKS PROJECT 11-12●塚口洋之	17
スマートコミュニティ●岸 一	18
医療空間の再生●池上 明	19
廃墟庭園のある路地奥の町家●吉村篤一+建築環境研究所	20

会告	一般社団法人移行のお知らせ。第59回工高生デザインコンクール（設計課題：クラブハウス）。日本建築協会東海支部主催見学会のお知らせ 式年遷宮の年の伊勢神宮（外宮・内宮）を訪ねて。第8回学生のための見学会～ショールーム巡り～「(株)ユニオン」「(株)ダイナワン」	1
----	---	---

gallery	「桜通りの住宅」●増田敬彦	6
---------	---------------	---

法令コーナー	堺市で第1号となる景観協定を認可●垣内 明	22
--------	-----------------------	----

設備の頁	エッジ効果抑制による新型遮音壁●河井康人	23
------	----------------------	----

関西の建築界群像	矢田朝士●駒井陽次	24
----------	-----------	----

再読 関西近代建築	泉布観・明治天皇記念館●酒井一光	25
--------------	------------------	----

information	カリフォルニア・デザイン 1930-1965—モダン・リビングの起源。ゴッホ展 空白のパリを追う。エミール・クラウスとベルギーの印象派。リヒテンシュタイン 華麗なる侯爵家の秘宝。とら・虎・トラ～甲子園の歴史と日本画における虎の表現～。特別展 ボストン美術館 日本美術の至宝。特別展覧会 狩野山楽・山雪。特別展 松園を魅了した麗しき女性美～装いへのこだわり～	29
-------------	--	----

新刊紹介	「喜多俊之 デザインの探訪1969—。建築21世紀はこれからだ 編集者・写真家300年の視点。建築家と小説家近代文学の住まい	31
------	--	----

月間の動き	平成25年2月	32
-------	---------	----



まち 建築 ひと

gallery

桜通りの住宅

設計
増田 敬彦

阪急箕面駅より東に延びる桜並木の道、通称「桜通り」に面した二世帯住宅。
 バスも通る幹線に面する建物前面（北側）は一階を御影石積の壁で閉じながらも、二階は大きく跳ね出した
 庇の下にガラス張りの廊下を配し、桜の樹上を超えて箕面の山並みへと視線を抜いている。
 もとは塀に囲まれた邸宅であったが、今回は塀を設けず、建物を桜通りより大きく後退させて車廻しを確保し、
 通りと一体となった拡がり感のある前面空間とした。
 敷地奥には既存の庭園を残し、旧邸の茶室を生け捕りにして一階のガラス張りの空間の中に組み込んだ。
 周辺の街並みに新たな刺激を与えつつ、心地よく馴染んでいる、そんな住宅である。

増田 敬彦（ますだ たかひこ）

1961 大阪生まれ

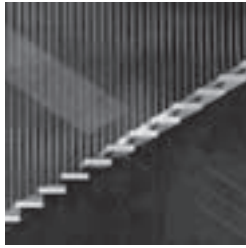
1986 大阪大学大学院工学研究科
建築工学修士課程修了

1986 浦辺設計

1989 住友信託銀行

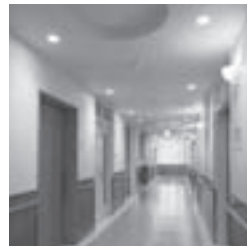
2002 増田敬彦一級建築士事務所
設立





私の空間作法

日本建築協会 ■ 会員作品特集



大きな経済の成長が望めない中、建築はよりじっくりと今あるものを見直し、魅力を再発見し、また付け加えていく、深めていく時期にあるのではと感じています。ひとつひとつは小さくても幾重にも魅力を積み重ねていけば、より味わい深い建築に近づけるのではないのでしょうか。会員の皆様のますますのご活躍を期待しております。

素材力の表現

西森史裕 大林組大阪本店建築設計部



ステンレス精密板金加工を行う工場のエントランスホールである。

本物の墨を塗りこんだ黒い塗り壁を背景に、ステンレスボルトで吊るされた22段の階段が浮かび上がる。表現したのは、素材が持つ美しさである。

66本（最長6.4m）の吊ボルトは、建築主の工場で加工されたものを現場で取り付けている。職人の鍍塗りと墨の効果で、自然なムラと黒色を表現した壁面を背景とすることで、ヘアライン加工された吊ボルトの素材感を効果的に演出した。

南面より差し込む陽光が、時の移ろいの中で半透明の吊ボルトスクリーンを演出させる。

ステンレスという素材が持つ美しさと存在感を、繊細でありながらストレートに表現した空間をつくることができた。

（西森史裕）



■ウミノ製作所新工場

所在地 滋賀県栗東市

施工 大林組

敷地面積 4,525.35㎡

建築面積 1,695.05㎡

延床面積 2,657.37㎡

構造規模 S造、地上2階

竣工 2013年1月

撮影 エスエス大阪 酒井文明

オフィスビルの中間領域

田中啓文 田中啓文総合建築研究所



大阪市内に本拠を置く企業の、工場部門の中枢を担うオフィスビル。

鉄骨ALC造にモザイクタイル貼りというきわめて一般的な工法を採用した4階建てのローコスト建築であるが、サッシュ廻りのディテールや、サッシュ自体の形状やプロポーションなどを吟味することで、端正で簡潔なファサードとし、堅実な技術開発型企業のイメージを表現するよう努めた。開放的な石貼りのエントランスが建物に正面性を付加し、合わせて1階執務部門と街路との中間領域となっている。

太陽光発電や屋上緑化、LOW-Eペアガラス、照度自動制御LED照明システムなどを備え、できる限り省エネと環境にも配慮した。

(田中啓文)

■O社事務棟

所在地	大阪市鶴見区
施工	コーナン建設
敷地面積	938.42㎡
建築面積	579.77㎡
延床面積	1940.09㎡
構造規模	S造、地上4階
竣工	2012年6月
撮影	砂川敏夫

展望リビングのある家

森村政悦 森村政悦建築設計事務所



計画地は、京都市西京区、西山に抱かれた丘陵地に開発された緑豊かなニュータウンとして昭和61年にまちびらきが行われ、低層の戸建てを中心に閑静な住宅地として自然と調和をコンセプトに街並みが形成されている。敷地は桂坂の御陵峰ヶ堂町の最南端に位置し、南に天王山、そして大阪湾へ流れる淀川が姿を現し、その流域は石清水八幡宮のある男山から東大阪に位置する信貴山までの風景を、四季を通じて楽しむ事が出来る場所である。

プランは、1階道路レベルに2台の駐車スペースと玄関ホールを配置し、予備室や浴室は地面に半分埋まった半地下となる。主階となる2階はLDKを眺望の良い南側に設け、北側には主寝室と子供室を配置している。

この地域は、京都市の景観条例や地区建築協定によって、街並の屋根の形や色調を統一することで、地域環境や景観を維持し創造に向けて継続的な活動を行っている。

そしてこの建築は、より深い軒、そして庇を持った屋根を積極的に構築することで、上空からの視線と道路レベルからの視線とを両立し、家族が生活する為の大屋根が出来上がったのである。(森村政悦)

■桂坂の家

所在地	京都府京都市御陵峰ヶ堂
施工	富士建設工業
敷地面積	219.70㎡
建築面積	108.06㎡
延床面積	164.57㎡
構造規模	RC+W造、地上2階
竣工	2010年4月
撮影	森村政悦

インタラクティブに對話するホール

藤城義丈 徳岡設計



この町にはやりたい人、やれる人がたくさんいる。その要望もまたそれぞれである。本格的なプロの演奏もちゃんと聞きたいし、日常の練習でも気軽に使いたい。そんな要望への回答として、木を主体とした少しフォーマルな雰囲気でも多様に使える空間を、對話がしやすいホールとしてデザインした。

プロのオーケストラやピアニストも、落語家も、町の音楽家や演奏家、また舞踊、演劇、講演と、まさに多目的に目いっぱい使ってもらっている。

町の企画委員会は、プロ顔負けに一流のパフォーマーを迎え、広く遠方からも聴衆を集め、町を刺激する。また日常に自分たちでもさまざまな活動を続ける。

いつも舞台と客席は一体となり、インタラクティブな對話が生まれる参加する空間となっている。

(藤城義丈)

■里山文化交流センター ぶらっと

所在地 福井県おおい町名田庄

施工 こんどう

敷地面積 3,658.51㎡

建築面積 2,769.56㎡

延床面積 3,478.36㎡

構造規模 S造、地上3階

竣工 2011年3月

撮影 松村芳治

集いを楽しむ

新居照和&ヴァサンティ 新居建築研究所



大型店舗が並ぶ郊外型町の住宅地の一角にある。建築を敷地境界線に沿わず対角に振り南面化させ、南北に十分な奥行きを確保し、北側、西側の住宅も日照、採光、通風を確保する。境界は塀ではなく、柑橘類を植え、敷地に果樹を中心とした多くの植栽を施し、周辺環境に潤いを与える。

南面化した住宅の軒から約一間の深い軒を出す。屋根と外壁は通気を施す。冬暖かく、夏涼しい南北に抜ける居室配置にする。木材を始め、材料は極力地場材を使い生かす。床面積は増加したが、光熱費は以前住んでいた賃貸住宅の半額になったそうである。

果樹を中心に庭をつくる。二階は友人や子育て仲間と交流が図れ、多様なライフスタイルに対応できる大きな広間空間にする。外部空間と住宅の内部空間との連続性をもたせ、拡がりのある居住空間をつくり、大空、緑といった自然や近隣の風景と関係づけ、人の暮らしを生き生きさせる。

(新居照和)

■藍住の家

所在地 徳島県藍住町

施工 アズマ建設

建築面積 68.68㎡

延床面積 119.89㎡

構造規模 W造、地上2階

竣工 2012年2月

撮影 北田英治

Harvest—唐ヶ谷の家

水谷俊博＋水谷玲子 水谷俊博建築設計事務所



神戸の山と海に囲まれたサイトに建つ、築24年の住宅のリノベーション。70歳を迎える高齢者が、終の住処となるであろうその家の中で、大半の時間を過ごすための新たなLDK空間の創出をめざした。

もともとワンルームに独立して存在した邪魔な柱を逆に利用し、柱を中心に四方に小壁をたてることにより、「であう」「たべる」「えがく」「くつろぐ」という生活スタイルのための、ゆるやかにつながる4つの場所を生み出した。

壁の小口や一部にミラー板仕上げを施す事により、他の部屋の様相や外部に広がる美しい海の景色を映し出し、部屋のどこにいても多様な距離感で内外の環境の気配を感じる事ができる。ひとりで暮していくのに快適なコンパクトなワンルームでありながら、空間体験はその大きさを超えて、多様で豊かに実を結ぶものであればと願っている。（水谷俊博＋平田 悠）

■唐ヶ谷の家

所在地 兵庫県神戸市

施工 水谷建設工業

建築面積 107.53㎡

延床面積 191.15㎡（改修部分 52.01㎡）

構造規模 S造、地上2階

竣工 2012年5月

撮影 中島悠二

京町家のDNA

早崎伸一＋平居 直＋平尾和洋 ヴィズ建築設計事務所



京町屋における空間作法を強く意識させられる計画であった。

京都の市街地に位置する間口10m×奥行40mの敷地に建つオフィス付き住宅として、通りの側から順にオフィス棟、前庭、住居棟、奥庭を計画した。

通りと直交する軸に沿って内ー外、明ー暗、抜けー澁みの変化を伴いながら奥へ奥へと展開するシークエンスは、用途は変わっても京町屋における空間構成を継承したものとなっている。このプランは、必要スベックと敷地形状、建ぺい率、景観条例との整合性から自然に導かれたが、逆にいえば特に低層の場合、京都の街区割りと法規制が功を奏し、京町屋の空間構成のDNAが守られているように思う。

その奥へ向かうシークエンスは、街路空間とは別世界の静けさに満ちた庭園として終わる。

(早崎伸一＋平居 直＋平尾和洋)



■NYH

所在地 京都府京都市
施工 太平工業
建築面積 236.72㎡
延床面積 367.59㎡
構造規模 RC造、地上2階
竣工 2012年10月
撮影 平居 直

Cosy House

稲垣和江 イナガキケンチクケンキュウショ



鉄骨造（築18年）戸建て住宅の改修。

「SimpleでCosyな家」というのが、アメリカに6年ほど住んでいた施主の希望だった。従前のプランは、ワンフロアの面積が大きく、中廊下型で部屋が細かく分かれ、建物中心部に窓の光が届かず暗い雰囲気だった。改修後は、大きなワンルームを必要に応じて引戸で仕切る、オーソドックスだがフロアの広さを生かしたプランとしている。可変性が見通しのよさ、採光と通風が確保されている。

（稲垣和江）

■OH邸 改修

所在地 大阪市旭区

施工 竹田建設

延床面積 84㎡（改修部分）

構造規模 S造、3階建の1階

竣工 2013年1月

都心の老人ホーム

中尾勝悦 中尾総合建築設計事務所



近鉄八尾駅前の近商地域に建つ有料老人ホームである。

近鉄の高架に近接し、周囲は賃貸マンション、戸建て住宅、病院が建ち並んでいる。

1階は、エントランス・厨房と6室のユニット、2階は、機械浴室と9室のユニット、3階～5階は、10室のユニットで構成している。

ユニットごとに浴室を設け、階ごとにライフスタイルを変えるべく、インテリアにも特色を持たせた。各階プランはセンターコア形式とし、入居者の回遊動線に心掛けた。また、カーテンウォールに面したリビングからは、隣接の庭園を借景させていただいた。

屋上庭園を設けた最上階は非常に眺望が良く、家庭菜園や花火観賞が行われ、小鳥のさえずりなど、都心に居ながら四季の変化を感じ取れることに心掛けた。

詩吟を趣味とする女性社長は、持ち前の明るさと綺麗な声で、今日も入居者の皆様に『元気』を振り撒かれています。

(中尾勝悦＋上田夏子)

■スワンの里ハイツⅠ

所在地	大阪府八尾市本町
施工	寺崎建設
敷地面積	439.49㎡
建築面積	283.60㎡
延床面積	1,185.69㎡
構造規模	S造、地上6階
竣工	2012年6月
撮影	フォトBC 田中克知

GREEN WORKS PROJECT 11-12

塚口洋之 塚口明洋建築研究室



2006年に竣工した巽今宮病院。植栽は薬効のあるものを選択し、病院の庭園として特色あるものにした。

その後、職員で植物の管理をされている方の手伝いをするようになり、その方が退職される際、薬草および庭園の利用に関する提案を含めた管理を任せて頂くことになった。

「ケルトの木の知恵」など神秘的な言い伝えに関する書物を参考にして植物を選択していたので、ストーリーを含めた植物に関する情報を病院を訪れる方々に提供することを心がけた。

リンゴ、カリン、クリ、カキなど、果樹を多数植えており、その収穫を楽しむ姿も見られ、秋祭開催時には好評を頂いている。

2010年から（仮）植木屋さんとして、いかに建築を含めた価値認識を高められるかということを考え続けた。

（塚口洋之）

■巽今宮薬草園

所在地 大阪府箕面市

施工 松村組

敷地面積 4762.47㎡

竣工 2006年3月

撮影 塚口洋之

スマートコミュニティ

岸 一 アトリエ JIGSAW



本団地は福島県郡山市近郊に位置し、すばらしい景観と地域特性に
いかに溶け込み、共存するかをコンセプトとした団地である。
緩やかにカーブした軸線（道路）を囲むように住戸を配置し、求心性
を意識することでコミュニティ形式が可能な計画としている。
中央にランドマークツリーを設けて団地内のシンボルの存在を目指
すとともに、その成長は緑豊かな団地形成を可能とするであろう。
また、道路との境界をフラットとし、共通の仕上げとする事で全体
をひとつのコモンパークと考え、安全で人にも優しい豊かなコミュ
ニティエリアとする。
太陽光発電や環境緑化を積極的に活用しており、環境にも優しく
自然との共生共存をめざす「スマートコミュニティ住宅」である。
(岸 一)

■小田原分譲住宅

所在地 福島県郡山市

施工 陰山建設

開発面積 1818.25㎡

撮影 柳沼真木子（陰山建設）

医療空間の再生

池上 明 エーアイ アーキテクト スタジオ



有床の整形外科医院の病室フロアの改装である。

病室は木目の腰壁や木目のヘッドパネルをとりいれ、清潔感があり患者さんが安らげるようなイメージとし、洗面器も車椅子に対応できるように改装した。廊下も木目の腰壁と手すりを設け、照明はダウンライトとブラケットを使い今までとは違うソフトなイメージを演出している。一般診療を続けながらの施工という条件で、はじめてご相談を受けてから短期間での設計、施工となったが、無機質的な雰囲気を取り払い、築30年を過ぎた建物とは思えないやさしく親しみやすい医療空間に再生することができた。患者さんにも大変好評であると聞いている。

(池上明)

■山口整形外科

所在地 和歌山市大谷405-1
施工 鴻池ビルテクノ
改装部面積 約220㎡
完成 2012年4月
撮影 稲住泰広

廃墟庭園のある路地奥の町家

吉村篤一＋建築環境研究所



*

この家は昭和初期頃に建てられたと思われるもので、あばら家のような状態になったまま住み続けられていた。それを今回躯体だけ残して大改造し、庭園も“廃墟庭園”というテーマで整備したものである。水廻りと玄関を除くとほぼ総2階の入母屋で、外形はそのまま屋根を葺き替え、内部の座敷は床の間の部材や書院の障子などの既存部分を活かしている。

(吉村篤一)



■紫翠庵

所在地 京都市北区

施工 藤井工務店

建築面積 73.40㎡

延床面積 110.43㎡

構造規模 W造、地上2階

竣工 2012年3月

撮影 新建築社写真部（*のみ）

(株)ハチセ

企画広告募集のご案内

会誌「建築と社会」では、貴社の新製品や新しい技術を記事掲載という形でご紹介させていただくコーナー「新製品レビュー」を設けております。

開発の意図や製品の特長、導入によって得られる成果、導入事例等、写真や図版等を含めて、具体的にご紹介いただけます。

社団法人日本建築協会の会員に限らず、どなたでもご執筆いただけますので、ぜひ貴社広告・宣伝の場としてご活用ください。

掲載料：モノクロ 1 ページにつき80,000円（消費税込み）

※掲載は1～2ページが基本となっております。

※掲載号、詳細につきましては担当者へお問い合わせください。

お問い合わせ先／一般社団法人 日本建築協会 編集事業課 片山・藤巻

TEL：06-6946-6981 FAX：06-6946-6984

E-mail：koukoku@aj.or.jp

堺市で第1号となる 景観協定を認可

垣内 明

堺市建築都市局都市計画部都市景観室

堺市では、平成23年6月、景観法に基づく堺市景観計画を策定し、市民、事業者、行政の協働のもと、良好な景観の形成に向けて、各種景観施策を推進している。

この2月、本市において第1号となる景観協定（一人協定）を認可したので、民間事業者による本協定の設定経緯、協定内容について紹介する。

晴美台エコモデルタウンにおける 景観協定の設定経緯

■小学校跡地を活用

本協定が設定された区域は、本市南部に位置する泉北ニュータウンの晴美台東小学校跡地に開発された戸建住宅地である。

環境モデル都市である本市では、この小学校跡地を活用し、再生可能エネルギーの活用などで、一次エネルギー消費量が正味ゼロ（または概ねゼロ）となるネット・ゼロ・エネルギー・ハウスの実現をめざすとともに、住環境・居住空間の快適性や生活の質を高める街区の創出を誘導するため、平成23年6月、「晴美台エコモデルタウン創出事業」の事業者を公募型プロポーザル方式により募集した。

募集にあたっては、第一種低層住居専用地域並みの建築制限を設けた建築協定の設定を開発条件として定めることにより、良好な住環境の維持・向上を図ることとした。

事業者選定委員会による審査の結果、平成23年10月、大和ハウス工業株式会社が優先交渉権者として選定され、泉北ニュータウンの再生モデルとなるまちの創出が始動した。

■まちへの愛着と長寿命化をめざす

大和ハウス工業は、晴美台エコモデルタウンの開発には、建築物の規模の制限だけでなく、緑豊かな泉北ニュータウンのまちなみに調和するよう、各宅地内にも積極的な緑化を行うとともに、住宅の外観の色彩や外構についても緑と調和するものとし、さらには、屋

外広告物も規制して、潤いと魅力ある良好な景観を形成・保全していくことで、住民のまちへの愛着を育み、エコモデルタウンとしてまちの長寿命化をめざすこととした。

これらの取組みを将来的にも実効性があるものとしていくため、開発条件として定められていた建築協定の設定については、建築物だけでなく、緑化や工作物、屋外広告物など、景観に関して幅広くルールを定めることのできる景観協定に変更する検討をはじめた。

このような中、晴美台エコモデルタウンにおける「スマ・エコタウン晴美台景観協定」の認可申請が大和ハウス工業から本市に対して提出されたものである。

■スマ・エコタウン晴美台景観協定

本協定の主な内容は次のとおりである。

■区域の概要

- ・用途地域：第1種中高層住居専用地域
- ・その他の地域地区：第2種高度地区（10m＋勾配1：0.6）、準防火地域

・区域面積：約1.1ha

・区画数：65区画

■建築物に関する基準

- ・建物用途：原則として1戸建て専用住宅
- ・敷地面積：170㎡以上
- ・建ぺい率：50%以下
- ・容積率：100%以下
- ・階数：地上2階以下
- ・高さ：10m以下
- ・北側斜線：5m＋勾配1：0.6
- ・外壁後退：1m以上
- ・屋根勾配：2.5/10～6.5/10
- ・色彩基準：
 - （屋根）黒色、灰色、銀色、または濃茶色とし、明度4以下、彩度3以下
 - （外壁（過半））色相Y,YR 明度6～8.5、彩度0.5～4
 - （外壁（一部））色相Y,YR 明度2～8.5、彩度0.5～4
- ・建築設備：太陽光パネルの色彩・設置形状は周辺の景観に配慮

■緑化に関する基準

- ・シンボルツリー、サブツリーなどの協定樹木を植栽
- ・協定樹木を含み、中高木3本以上（うち高木1本以上）を植栽

■工作物に関する基準

- ・自動販売機の設置不可
- ・高さ10mを超える工作物の設置不可

■屋外広告物に関する基準

- ・種類：自己用に限る

- ・形態意匠：建築物及び周辺景観に調和
- ・設置位置：地上から3m未満、庇・屋根の上への設置不可
- ・表示面積：合計0.7㎡以下

■団地全体でエコと防災

本区域では、景観協定による景観形成だけでなく、電線類を地中化することや、加入義務のある団地管理組合法人を設立し、この管理組合が道路等の公共部分の植栽を管理するなど、美しいまちなみを実現させるための工夫がされている。

団地全体でもネット・ゼロ・エネルギー化を実現させるため、全住宅への太陽光パネルの設置だけでなく、集会所や団地内調整池上部にも太陽光パネルを設けることにより、集会所や街路灯など共用部分のエネルギーの自給自足をめざしている。

また、集会所に電気自動車を1台配置し、管理組合によってカーシェアリングを運営することで、各住戸の2台目需要を補い、マイカー台数の削減をめざした省資源化への取り組みも行われる予定である。

防災面では、集会所に大型蓄電池を設置し、災害時などの停電時にも集会所が活動拠点として機能するよう計画されており、団地全体でのエコと防災の仕掛けがつけられている。



スマ・エコタウン晴美台のイメージパース

■おわりに

景観は、市民や事業者の日々の活動の積み重ねによってつくりあげられるものであり、各自が景観形成の担い手として、周辺景観と調和した質の高い魅力ある景観づくりを意識し、積極的に景観形成に努めることが求められている。

今後とも、景観形成の主体となる市民や事業者による景観活動を支援し、堺らしい景観づくりに取り組んでいきたい。

（かきうち あきら）

エッジ効果抑制による 新型遮音壁

河井康人

関西大学 理事 環境都市工学部長 教授

近年、道路等に設置される遮音壁の性能向上のために、先端改良型と呼ばれる遮音壁が数多く提案されており、吸音型のものや干渉型のものが多く見受けられる。これらの先端改良型遮音壁の理論的な拠り所は、回折音場がキルヒホッフの境界条件近似を出発点としたキルヒホッフの回折理論より、遮音壁エッジに沿った音圧の線積分で記述されることであろう。遮音壁エッジ部分に吸音処理や位相干渉させる装置を設置することで、回折音のレベルを低下させようとする考え方である。筆者は、波動方程式から導かれる境界積分方程式による理論解析によって、プレートエッジ近傍で粒子速度振幅が非常に大きくなる領域が存在することを既に明らかにした。この領域における粒子速度を抑制するという新しいアイデアで、回折場の騒音を効果的に低減することができるエッジ効果抑制型の遮音壁の要点について以下に述べる。

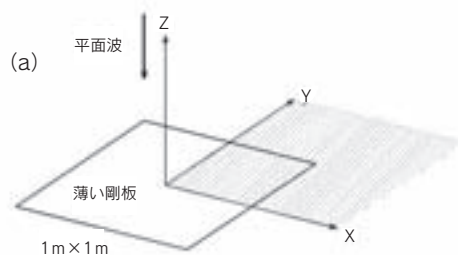


図1 薄い剛板近傍の粒子速度振幅
(Z方向成分、相対値)、250Hz

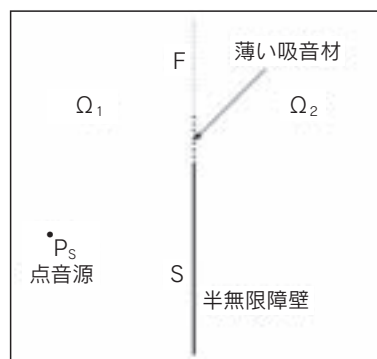


図2 エッジ効果抑制型遮音壁

エッジ効果について

図1 (a)に示すように薄い剛板に音波が入射したとき、その表面と裏面の音圧分布には大きな差が生じる。それ故、剛板のエッジ近傍では急峻な音圧勾配が生じ、空気粒子が励振されて非常に大きな振動速度振幅の領域が現れる(図1 (b)参照、1/4の領域を表示)。この現象を筆者は「エッジ効果」と呼んでいる。

エッジ効果抑制型遮音壁

図2に示すように、半無限障壁Sとその上方に延長された仮想面Fによって2つの半無限領域 Ω_1 、 Ω_2 に分割すれば、回折側領域 Ω_2 における音場は、仮想面F上に分布する粒子速度(法線方向成分)の寄与により求められることが理論的に示される。エッジ効果は遮音壁の先端部分に生じるから、回折音場においてはエッジ近傍の非常に大きな粒子速度分布の寄与が支配的となる。それ故、エッジ近傍に適切な流れ抵抗を持った布等の薄い多孔質吸音材を設置すれば(図2参照)、空気の粒子の振動エネルギーが繊維等との摩擦により熱エネルギーに変換されることによって粒子の振動が抑制され回折音は減少する。摩擦抵抗は速度に概ね比例すると考えられるから、非常に大きな振動速度をもつエッジ近傍に吸音材を設置することで効率的な抑制が可能となる。

ところで、エッジ効果の抑制のために大きな流れ抵抗の様な吸音材を用いると、吸音材上端にもエッジ効果が現れるため、遮音性

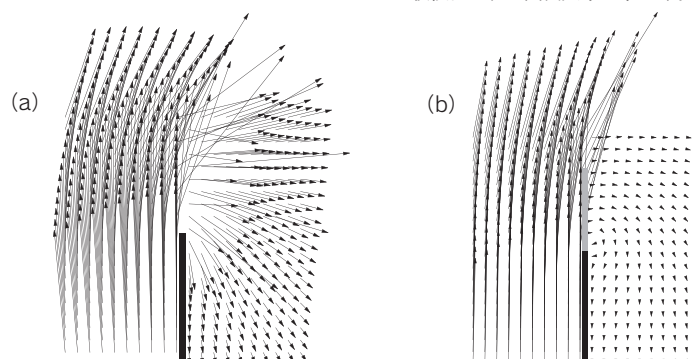
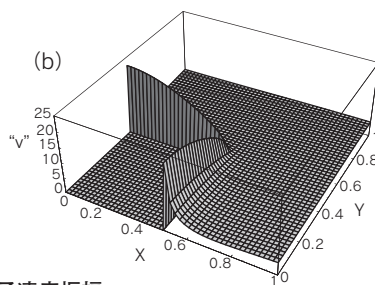


図3 遮音壁先端付近の音のエネルギーの流れ(時間平均値)
(a)通常の遮音壁、(b)エッジ効果抑制型遮音壁(グラデーション吸音材を設置)

能にはある限界(5dB程度の十分大きな改善であるが)があることが流れ抵抗を変化させた多くの数値的な計算から明らかになった。この限界は、吸音材下端では大きな流れ抵抗を持ち、上端に行くに従って0となるようなグラデーション吸音材を用いることで乗り越えることができた。音源・受音位置関係にもよるが、同じ高さの遮音壁でもこの方式のエッジ効果抑制型は通常の遮音壁と比較して10dB程度の遮音性能の向上が理論的にも示されている。図3は通常の遮音壁とエッジ効果抑制型遮音壁(グラデーション吸音材を設置)の先端付近における音のエネルギーの時間平均流の計算例を示したものであるが、後者は回折側領域へ回り込むエネルギーが大幅に減少していることがわかる。

終わりに

エッジ効果抑制というアイデアにより、非常にシンプルではあるが従来の先端改良型の性能を大幅に凌ぐ遮音壁の可能性が示された。実際に行った実験では理論値と概ね一致することが確かめられ、一部で既に製品化もなされている。エッジ効果抑制型は従来のものと比較して、高さを2/3程度に抑えることも可能で、景観、日照阻害、耐風圧などの点で多くの利点を有している。遮音壁の上部を、音が良く透過するような薄い吸音材で置き換えることによって遮音性能が向上するという一見納得し難い理論予測結果は実験を進めて行く過程で確かなものとなったが、開発者である筆者にとっても未だ不思議な現象と感じている。最先端とは言えない騒音制御工学の研究領域で、まだこのような未開拓の地が残っていたことも少し驚きである。なお、エッジ効果抑制のアイデアは道路遮音壁だけでなく、騒音制御における幅広い応用の可能性を秘めている。(かわい やすひと)

●河井康人

1973年関西大学工学部建築学科卒業後、京都大学大学院、20年間の大阪工業大学勤務を経て、1998年4月より関西大学助教授、2003年4月より同大学教授。現在、関西大学理事、環境都市工学部長。

矢田 朝士

—YADA ASASHI—



「ATELIER-ASH」にて

■略歴

1967年	京都生まれ
1990年～91年	北米・中米・南米・欧州各地を放浪
1992年	神戸大学工学部環境計画学科卒業
1992年～97年	無有建築工房勤務
1998年	ATELIER-ASH 設立
	アジア・北アフリカ各地を旅する
2007年～	関西大学非常勤講師
2010年～	大阪市立大学非常勤講師

■受賞歴

2001年	あたたかな住空間デザイン「居室特別賞」 あたたかな住空間デザイン「大阪ガス賞」 日本建築家協会近畿支部「建築家新人賞」
2006年	建築環境・省エネルギー機構 サステナブル住宅賞「優秀賞」
2007年	大阪府建築士会「渡辺節賞」 TOTOリモデスタイル作品コンテスト「最優秀賞」
2008年	日本建築家協会「新人賞」 日本建築士会連合会賞「優秀賞」 奈良県景観調和デザイン「奨励賞」
2010年	日本建築士会連合会賞「奨励賞」
2011年	すまいの環境デザイン・アワード「大阪ガス賞」 日本建築家協会「関西建築家大賞」
2012年	すまいのインテリアコーディネーションコンテスト 2012「経済産業大臣賞」 ほか

“生きる”ということ

矢田朝士。“生きる” ことに対して真剣であり、建築に対しても人が“生きる”という事を追い求めている建築家であった。

「人生には限りがある。」「僕の時間は買えない。」と語り、納得いく仕事しか取り組まない。「納得できない仕事をするくらいなら、食えなくてもいい。」とまで言い放つ。これは過剰な表現かもしれないが、それ程までに自分の時間、自分の“生き方”を大切に考え、建築にも真剣に取り組んでいる。

京都の太秦で育ち、いつも街を駆け巡っていた幼少期。大好きだった場所は、近所にあったお寺の境内。「僕は、自然を感じ、空間を感じながら育ったと思います。」と楽しそうに語る。

しかし、現在、多くの人は、コントロールされた環境で生活している。本来の“生きる”ということから外れている。風が流れないコントロールされた空間から見る景色は、映像と同じ。雨を感じ、風を感じるのが人。人は、豊かさを手に入れたが、自然から遠ざかってしまった。矢田氏は、そう指摘する。

「僕は、自然の中にいたい。」「人は、“自然と共に生きる”ものだ。」

雨を感じ、風を感じる生活が理想であると考えていた矢田氏は、ある日、同じような感覚を持ったクライアントに出会った。そこから生まれた建築が、代表作であるES-house01である。

“自然と共に生きる”が具現化されている。[コントロールされた環境の空間]と[自然の変化に環境をゆだねる空間]とが併存し、日常生活の中に自然を取り込んだ生活空間がつくられている。外か内か、既成の概念では規定できない生活空間がそこにはある。矢田氏は、そこを『外室』と名付けた。力強く包容力のある洞窟のような『外家：Environmental Shell』により生活空間を包み込み、穏やかな自然が『外室』に流れ込む。『外室』を核に諸室が繋がる各部屋には外部空間が対で配置され、常に自然の営みと共に日々の生活がある。住み手が身体全体で空間を感じることで、感受性が研ぎすまされていく。『外室』は、家族、友達が集い、生活の中心となっている。

生活の中心というものは、自然と生活が重なり合う場所なのかもしれない。しかし、図面ではそこまで読み取ることはできない。「みんな図面では分からないって言うんですよ。」と矢田氏は微笑む。そこには確かに穏やかな風が流れているのであろう。

人が“生きる”本来の姿まで考えさせられるES-houseの評価は高く、多くの賞を受賞している。矢田氏は、当初、賞というものにまったく関心はなかったと言う。しかし、ある時、自らの時間を費やし、創りだしているものを社会は求めているのかという疑問を抱き、その答えを得る1つの手段が賞であると考えた。「もしダメだったら、建築をやめる。」とその時の心境を友人に話していたと言う。それは悲観的な考えからではなく、自らが必要だと思い創りだすものが社会から求められていないのであれば、自らの時間を費やす必要がないと考えるからである。結果として、多くの賞を受賞した。自らの時間を費やしていることは社会からも求められていると分かった今、住宅だけに止まらず、人が集って住まう集合住宅や、多くの人が多くの時間を過ごすオフィスなどにおいても、“自然と共に生きる”ということを取り組んでいきたいと話す。矢田氏が考える“生きる”ということの次なる展開に、大いに期待したい。

アトリエで矢田氏と過ごした時間において、サステナブルな社会を目指す現代において、その思想の根底を貫くべき“自然と共に生きる”ということに触れた気がする。

最後に、「僕のつくったものは、僕の“生きる”証です」と矢田氏はサラッと言いかけた。

聞き手 駒井陽次（昭和設計）
写真撮影 河合止揚

泉布観・ 明治天皇記念館

酒井 一光

再読 関西近代建築

モダンエイジの建築遺産

泉布観は、明治4年（1871）に創業した造幣局（創業時は造幣寮と呼ばれたが本論では造幣局に統一）の応接所として建てられた。いまも当時の場所に現存し、関西に残る近代建築としては最古のものである。また、造幣局創業当時の建築としては、他に金銀貨幣鑄造場（以下、鑄造場）の正面玄関が、泉布観敷地内に移築され、昭和10年（1935）に竣工した明治天皇記念館の正面玄関として残っている。ふたつの造幣局創業当時の建築について、ここでは各時代の『建築と社会』（以下、本誌）での記事に触れながら紹介する。

■「郷土建築」として紹介

明治政府樹立後間もなく、経済の根幹をなす貨幣を製造する造幣局が大阪に設置されることが決まった。明治2年に東京奠都が行われる以前から、造幣局の工事は開始された。敷地は物資の輸送の面で有利な、大川に面した旧幕府御破損奉行役所材木置場跡の天満川崎の地が選ばれた。設計はアイルランド出身の技師ウォートルスがあたり、文明開化を象徴する洋風の工場群が設計された。工事は請負頭清水磯吉のもとに進められたが、途中不祥事があったため営繕司直営で行われた。明治3年には、後に泉布観と呼ばれる応接所を含む大半の建物が完成し操業を始めたが、創業式を迎えたのは明治4年のことである。翌5年、明治天皇が行幸し応接所に滞在した。その折に、貨幣の館を意味する「泉布観」と命名した。泉布観を含む造幣局の姿は、文明開化の象徴として多くの錦絵や絵葉書の題材とされ、大阪の観光名所となった。殊に、明治16年に始まる造幣局の「通り抜け」の桜は、現在も続く大阪の春の風物詩となっている。

ところで、本誌の前身『関西建築協会雑誌』の創刊は大正6年（1917）であるから、

造幣局の竣工記事は掲載されていない。しかし、本誌では数度にわたって造幣局創業当時の建築群を紹介してきた。最初に大きく取り上げたのは、昭和7年8月（第15輯8号）の「郷土建築」特集号における中村角之助「造幣局に就いて」である。ここでは、造幣局創業当時の図面を学生に透写させた貴重な図版の数々が紹介された。ところで「郷土建築」とは、当時国宝として保護された寺社建築以外の、江戸時代の町家や農家、明治初年の洋風建築物などを指す。当時、本会の編集常務評議員を務めていた建築家・本間乙彦は「郷土建築」に注目した中心人物で、昭和4年以降の本誌では「郷土建築」特集が毎年1回程度のペースで組まれた（なお、本誌昭和3年3月号の本間乙彦「我等が父祖の建築文化記念物を保存せよ」では、「郷土建築」の言葉は使っていないが、既にその概念を提唱している）。「郷土建築」の特集が組まれた背景には、当時の都市計画に伴う幹線道路の拡幅やビルディングの建設などによって、江戸時代の町家や明治初年の洋風建築が次々に建て替えられていたことがある。造幣局もまた、大正12年に起こった関東大震災以降、耐震化と規模拡張が検討される中で、旧鑄造場などの改築が決まった。しかし、元造幣局員・小澤扶公らが、明治天皇が大阪で最初に訪れた聖跡であり、文明開化を象徴する建物であることから保存を提唱した。結果、もっとも象徴的な正面玄関が残されることが決まった。正面玄関は「廢墟のごとくなった跡に取毀されずあたかもギリシャのアクロポリスの如く」（『大大阪』昭和2年6月号）残されていたが、泉布観の敷地内に移設が決まり、新築される明治天皇記念館の正面玄関として採用されることとなった。

所在地／大阪市北区天満橋1-1-1
【泉布観】
設計／T.J.Waters
施工／直営
竣工／明治4年
構造／煉瓦造
規模／地上2階・一部地下1階
種別／官公庁

【明治天皇記念館】
所在地／大阪市（正面玄関：T.J.Waters）
設計／池田榮三郎
施工／昭和10年
竣工／昭和10年
構造／鉄骨鉄筋コンクリート造
規模／地上2階・一部中2階地下1階
種別／官公庁



①泉布観・旧桜宮公会堂（現在整備工事中のため、平成21年撮影の写真を掲載）



②泉布観（『建築と社会』昭和7年8月より、以下*印）



③明治31年の行幸を再現した泉布観2階北東室
（『大阪市立北区実科女学校創立十周年記念』大正15年より）



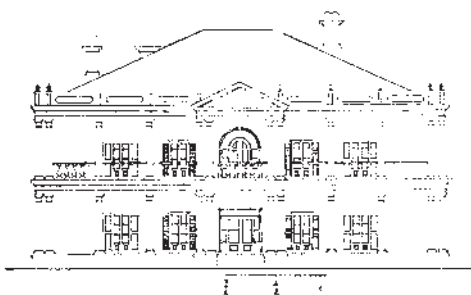
⑤泉布観と明治天皇記念館
（『建築と社会』昭和10年12月より）



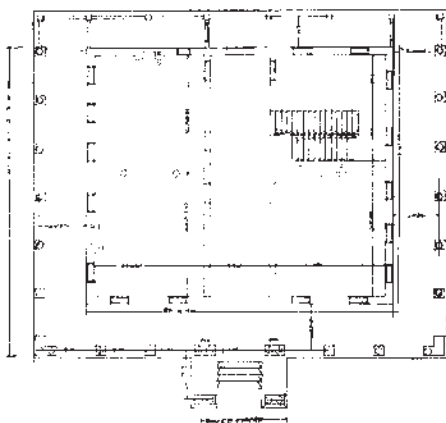
④造幣局金銀貨幣鑄造場正面（*）



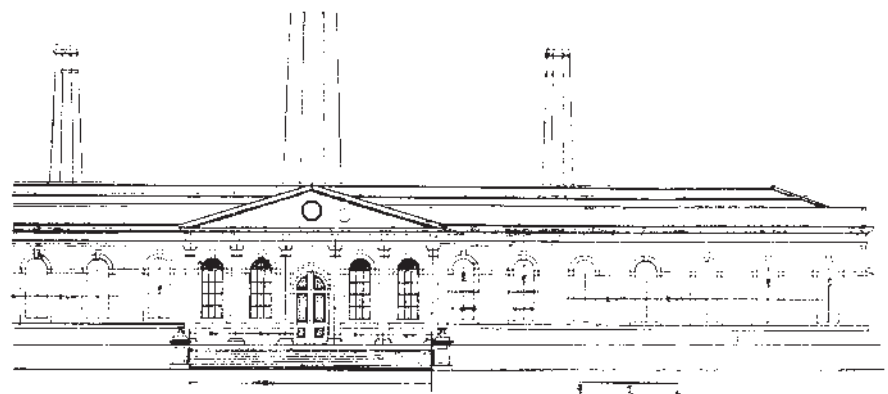
⑥明治天皇記念館2階陳列室
（『建築と社会』昭和10年12月より）



⑦創業当時の泉布観立面図（*）
当初はパラペットがめぐり、軒の出がない。



⑧創業当時の泉布観1階平面図（*）
南北面（側面）の柱間が6間で、現状5間と異なる点が以前から注視されてきた。



⑨造幣局金銀貨幣鑄造場立面図（*）



⑩水都大阪2009にあわせライトアップされた泉布観（平成21年9月25日撮影）



⑪泉布観1階中廊下



⑫泉布観1階南室 左手の小窓が配膳口



⑬泉布観2階北西室



⑭旧桜宮公会堂北面



⑮旧桜宮公会堂2階



⑯旧桜宮公会堂西側の日本庭園 今後整備される予定
（平成24年12月25日撮影）



⑰整備が進む旧桜宮公会堂（平成24年12月25日撮影）

■泉布観の建築と歴史

泉布観は、大川に面して東向きに構える煉瓦造2階建の建築である。屋根は寄棟造棧瓦葺で、煙突の下には1・2階に各4か所、計8か所の暖炉が設置されている。外観は四周にヴェランダがあり、北・東・南の三方には花崗岩の円柱が、西側は同じく角柱が巡っている。幕末から明治初期の洋館は、南アジアなど欧米の植民地に建てられた洋館を模して四周にヴェランダを設けていた。しかし、日本では気候風土が異なるため徐々にヴェランダは衰退し、やがて正面だけにヴェランダを設ける神戸の異人館のような形に落ち着いた。泉布観は四周にヴェランダを設ける点で、古風なスタイルといえる。ヴェランダに面した窓はすべてフランス窓（床から直接立ち上がる窓）で、外側に外開きの木製錠戸、内側に内開きのガラス窓を取り付けている。ヴェランダの天井は、1階は菱格子、2階は漆喰塗りである。正面には車寄せが張り出し、上部はペディメントが設けられ、終戦までは菊の紋章が掲げられていた。創建当初は、軒まわりにパラペットが巡っていたが、明治半ばの改修で日本の風土に適するよう、屋根の軒先を伸ばした現在の姿になった。

内部を紹介する前に、泉布観の歴史について概略を触れておく。泉布観は造幣局の応接所として建てられ、天皇が明治5年、10年、31年の3度にわたり行幸し、照憲皇太后は2度、英照皇太后が1度行啓したほか、明治時代を通して多くの皇族や外国人がここを訪問した。明治26年から同28年にかけては、当時第四師団長を務めた北白川宮能久親王が新たに和風の官舎を設けて滞在した。和風官舎は、洋館である泉布観とあわせて和洋館併存型住宅のような構成となった。北白川宮の生活は、主に和風官舎で営まれ、泉布観を迎賓施設として用いたと考えられる。なお、泉布観の所管は明治22年に大蔵省から宮内省に移っている。以上のように、泉布観は基本的に応接所・迎賓館として建てられたため、住宅とは機能が異なる。

それでは、泉布観の内部を見てみよう。玄関の扉をあけると、奥まで中廊下がのびる。中廊下は天井高が4mを超え、がらんと質素な雰囲気なたたえているが、むしろ明治政府樹立間もない時期の質実剛健な気風が宿っているように感じられる。主たる照明器具は造幣局創業当時の瓦斯燈時代のもので、電気に代わってからも用いられている。中廊下右手（北側）には2つの部屋とその間に階段室があり、左手（南側）に大きな一部屋がある。1階南室は、中央に2本の円柱があり2階の荷

重を支えているが、広い一室として利用できる。西端に配膳口があることから、食堂としての利用が想定されていたことがわかる。観内には調理場がなく、当初は西側に別棟として調理場があった。2階に上がると、1階と同位置に中廊下があり、北側に2部屋、南側は3部屋に分かれる。このうち大川に面した北東室は、天皇が行幸した際の「玉座」にあてられた部屋である。この部屋が他と異なるのは、シャンデリアがなく、ブラケットとした点である。行幸の際は泉布観全体が飾り立てられ、2階北東室は金屏風などで装飾された。現在の泉布観の内装は、明治31年の行幸に備え、二代川島甚兵衛らによって整えられたものが基準になっている。

泉布観が応接所・迎賓館としての機能を果たしたのは主に明治時代までであり、大正6年に大阪市北区に払い下げられ、大阪市北区実科女学校の一部として使われるようになった。女学校校舎は泉布観西側に建てられ、泉布観は1階南室が音楽教室として利用された。2階は明治天皇の聖跡として普段生徒は上がることができなかったという。大正7年、造幣局と泉布観の間を分断して、現・国道一号線を通す工事により、隣接する異人館などが取り壊された。昭和10年に泉布観敷地内に明治天皇記念館が落成すると、泉布観は観覧コースの一部にも組み込まれた。

■明治天皇記念館の建築と歴史

昭和10年に竣工した明治天皇記念館は、一部地階・中2階付の鉄骨鉄筋コンクリート造2階建てで、1階が講堂、2階が陳列室となっていた。正面は南向きで、中庭を挟んで泉布観と約120°程の角度を振って並びたっている。正面玄関は、青龍山石を用いた旧鑄造場のものを譲り受けたもので、部分保存の早い例といえる。泉布観と同じトスカナ式の列柱が6本そびえ、上部にペディメントをいただく。鑄造場時代には、ペディメント中央に時計が、両脇に菊の紋章がついていたが、移築時点では時計はなく、菊の紋章だけが採用された（時計は現在、造幣博物館にある）。「明治天皇記念館新築工事並設備概要」（本誌昭和10年12月号）によれば、旧鑄造場の石材を用いたのは正面玄関と腰壁とあり、他は「人造石小叩き仕上」と記されているが、南・東・北面のアーチ窓を縁取る石材にも青龍山石が使われており、旧鑄造場の古材を用いたものと考えられる。全体の意匠は、正面玄関の保存を尊重した重厚なものだが、2階東面にはテラスが張り出し、大川を望むことができる。2階陳列室には天窓が設けられ、人工照明と

自然光を併用して展示物が鑑賞できるようにになっていた。また、明治天皇記念館に設けられた照明器具は、泉布観内の照明器具の型にならって作ったもので真鍮製古味仕上とした。

明治天皇記念館は途中、聖徳館と改称され戦後を迎えた。昭和23年からは桜宮公会堂・図書館として使用され、昭和60年からはユースアートギャラリーとして児童画の展示施設になるなど、各時代にふさわしい使い方がなされてきた。

■時代をうつす大阪最古の洋風建築

早くから「郷土建築」として注目されてきた泉布観と旧桜宮公会堂（旧明治天皇記念館）正面玄関は昭和31年、重要文化財に指定された。洋風建築としては、大浦天主堂などを除いて最初期の指定である。昭和37～39年に行われた泉布観の保存修理工事は、明治洋風建築としてはやはり最初期のものだった。長らくベールに包まれていた泉布観は、昭和49年度から年1回程度一般公開されるようになった。近年では水都大阪などのイベントにあわせ、特別公開されるなど柔軟な使い方もされるようになってきた。しかし、保存修理工事から50年近くが過ぎ、明治最初期の2階建煉瓦造建築という国内でも稀有な建造物で、災害時の安全性などもあり、常時公開にはいたっていないようである。しかし、明治天皇記念館が今春から旧桜宮公会堂の名で結婚式場として使われることになり、現在改修工事・庭園整備が進んでいる。これにあわせ、泉布観も外観を中心とした補修が行われた。

明治政府の誕生とほぼ時を同じくして建てられた造幣局とその応接所・泉布観は、日本の近代史の原点といえる建造物である。文明開化をしのぶ「郷土建築」、洋風建築として最初期の重要文化財指定など、各時代に常に注目されてきた。旧桜宮公会堂はいま、保存活用がみえはじめたが、明治初期煉瓦造2階建のデリケートな構造の泉布観をどう守り伝えていくか、今後も注意深く見守っていく必要があるだろう。

●主要参考文献（『建築と社会』を除く）

- ・『大阪市立北区実科女学校創立十周年記念』（大阪市立北区実科女学校、大正15年）
- ・『明治天皇記念館泉布観記録』（大阪市、昭和10年）
- ・『重要文化財泉布観保存修理工事報告書』（大阪市、昭和39年）
- ・『造幣局百年史』（大蔵省造幣局、昭和51年）
- ・拙稿「実科女学校校舎として使用された泉布観について―卒業生への聞き取り調査を通して―」（『研究紀要』第4号、大阪歴史博物館、平成17年）

（さかい かずみつ／大阪歴史博物館学芸員）

①カリフォルニア・デザイン 1930-1965 モダン・リビングの起源

カリフォルニアは、第二次世界大戦後、世界一の経済力を誇る大国アメリカの大衆文化の中心として飛躍的な発展を遂げた。急激な人口の増加に伴い、住宅や生活空間への新たな需要が生じ、戦争に際して開発された新たな素材や技術を有効活用した、大胆かつ実験的な独自のデザイン活動が展開される。開放性や鮮烈な色彩などを特徴とした、西海岸ならではのアイデアに満ち溢れたデザインは、気楽で快適な新しい生活様式の実現に向けられていく。自然環境や日常生活との結び付きに重きを置いたカリフォルニア・デザインは、様々なメディアを通じて世界中に広がり、誰もが思い描く、実現可能な夢の生活のシンボルとなる。本展では、20世紀デザイン史において重要な役割を果たしたにもかかわらず、これまで十分に紹介されてこなかった「カリフォルニア・モダン」の全貌を、家具やファッション、陶芸、建築写真など、約250点の作品を通じて紹介する。

期 間 6月3日(月)まで
10:00~18:00金曜日は20:00まで
(入場は閉館30分前まで)
休館日 火曜日(4/30は開館)
会 場 国立新美術館 企画展示室1E
東京都港区六本木7-22-2
TEL.03-5777-8600(ハローダイヤル)
観覧料 一般1,000円、大学生500円、
高校生、18歳未満無料



リチャード・ノイトラ《カウフマン邸(パー ムス プリンクス)》1946年
写真:ジュリアス・シュルマン 1947年
ゲッティ・リサーチ・インスティテュート蔵
The Getty Research Institute, Los Angeles
©J. Paul Getty Trust. Used with permission. Julius Shulman Photography Archive, Research Library at the Getty Research Institute (2004.R.10)

②ゴッホ展 空白のパリを追う

今日のゴッホ研究は、弟テオとの書簡をもとに検証されているが、ゴッホがテオと同居していたパリ時代には、それらの書簡が存在しないため、ゴッホのパリでの生活をうかがい知ることが出来なかった。しかし、パリ時代のゴッホは、作品が雄弁に証言している。やがて訪れる悲劇の序章が見え隠れする空白のパリの700日を36点の日本初公開の作品を含む52点で紹介する。

期 間 4月2日(火)~5月19日(日)
9:00~17:00(入館は16:30まで)
休館日 月曜日(4/29、5/6は開館)
会 場 京都市美術館(岡崎公園内)
京都市左京区岡崎円勝寺町124
TEL.075-771-4107
観覧料 一般1,400円、高大生1,000円、
小中生500円



フィンセント・ファン・ゴッホ《グレーのフェルト帽の自画像》
Vincent van Gogh (1853-1890), Self-portrait with grey felt hat, 1887-09 Paris, oil on cotton, 44.5 x 37.2cm,
Van Gogh Museum, Amsterdam (Vincent van Gogh Foundation) s16V/1962 F344

③エミール・クラウスとベルギーの印象派

印象派発祥の地フランスの隣国ベルギーでは、印象派は独自の発展を遂げた。その中心人物となったのが、ルミニズム(光輝主義)を主導したエミール・クラウス。本展では、クラウスの作品を中心に、彼のもとに集まったベルギーの印象派の画家たち、その源となったフランスの印象派、クラウスに学んだ児島虎次郎と太田喜二郎の日本の印象派を約70点で紹介する。

期 間 4月20日(土)~5月26日(日)
10:00~17:00(入場は16:30まで)
休館日 月曜日、5/7(4/29、5/6は開館)
会 場 姫路市立美術館
姫路市本町68-25

TEL.079-222-2288

観覧料 一般1,000円、高大生600円、
小中生200円



エミール・クラウス《仕事を終えて》1889年
RESコレクション、聖ヨハネ画廊寄託(ゲント)
Photo: RES Collection, courtesy Galerie St-john, Gent

④リヒテンシュタイン 華麗なる侯爵家の秘宝

オーストリアとスイスの間にあるリヒテンシュタイン侯国。同国の国家元首であるリヒテンシュタイン侯爵家は、優れた美術品収集こそが一族の栄誉との家訓のもと、500年以上にわたってヨーロッパ美術の名品を収集してきた。その数は3万点に及び、英国王室に次ぐ世界最大級の個人コレクションといわれる。本展では同コレクションを日本で初めて紹介。ルーベンス、ラファエッロ、クラナッハ、レンブラント、ヴァン・ダイクをはじめとする巨匠たちの名画や、華麗な工芸品など選りすぐりの名品88点を公開する。

期 間 6月9日(日)まで
9:00~17:00(入館は16:30まで)
休館日 月曜日(4/29、5/6は開館)
会 場 京都市美術館(岡崎公園内)
京都市左京区岡崎円勝寺町124
TEL.050-5542-8600
(ハローダイヤル 8:00~22:00)
観覧料 一般1,500円、高大生1,000円、
小中生500円



ペーテル・パウル・ルーベンス《クララ・セレーナ・ルーベンスの肖像》1616頃
©LIECHTENSTEIN. The Princely Collections, Vaduz-Vienna

⑤とら・虎・トラ ～甲子園の歴史と日本画における虎の表現～

甲子園球場は、1924（大正13）年、西宮に誕生した。この年の干支が「甲子」であったため、その一帯は「甲子園」と呼ばれ、野球場は「甲子園球場」と名付けられた。写真や当時のグラフィック資料など約150点を通して甲子園の歴史を振り返るとともに、甲子園をホームグラウンドとする阪神タイガースにちなみ「虎」に関する作品に焦点を当てた展覧会を開催する。伊藤若冲、円山応挙、長沢芦雪、長崎派、岸駒、竹内栖鳳、大橋翠石な



重要文化財 長沢芦雪「虎図襖」無量寺蔵（前期4/6～4/23のみ展示）

ど多くの画家達が描いた虎の日本画約60点で様々な虎の表現のおもしろさに迫る。
期 間 4月6日(土)～5月19日(日)
10：00～17：00（入館は16：30まで）
休館日 水曜日

会 場 西宮市大谷記念美術館
兵庫県西宮市中浜町4-38
TEL.0798-33-0164
観覧料 一般800円、高大学生600円、
小中生400円

⑥特別展 ポストン美術館 日本美術の至宝

アメリカのポストン美術館は、“東洋美術の殿堂”と称される。100年以上にわたる日本美術の収集は、アーネスト・フェノロサや岡倉天心に始まり、今や総数10万点を超え、海外にある日本美術コレクションとしては世界随一の規模と質の高さを誇る。本展は、その中から厳選された仏画に絵巻、中世水墨画から近世絵画まで70点を紹介する。かつて海を渡った"まぼろしの国宝"とも呼べる日本美術の至宝が一堂に里帰りする。



「平治物語絵巻 三条殿夜討巻」(部分) 鎌倉時代・13世紀後半 ポストン美術館蔵
Photograph © 2012-2013 Museum of Fine Arts, Boston.

期 間 4月2日(火)～6月16日(日)
9：30～17：00（入館16：30まで）
休館日 月曜日、5/7（4/29、5/6は開館）
会 場 大阪市立美術館（天王寺公園内）
大阪市天王寺区茶臼山町1-82
TEL.06-4301-7285
（大阪市総合コールセンター なにわコール 8：00～22：00）
観覧料 一般1,500円、高大生1,000円、
中学生以下無料

⑧特別展 松園を魅了した麗しき女性美 ～装いへのこだわり～

女性の装いにひと際関心を示し、生涯にわたってその研究を重ねてきた松園。着物や帯、かんざしなどの詳細な描写は松園芸術の大きな魅力となっており、中でも髻の美しさは特筆すべきものがある。「時代の美人画を描く心の中には、美しい日本髪が忘れられていくのを嘆く気持ちもある」と語り、髻を描く際には細やかで高い技術を駆使した表現を心がけ、他の作家の追随を許さぬ趣を漂わせている。様々な時代や年代の女性の装いを巧みに描いた松園作品に託された日本の美意識を紹介する。

期 間 5月12日(日)まで
10：00～17：00（入館は16：00まで）
休館日 月曜日、4/30、5/7
（4/29、5/6は開館）
会 場 松伯美術館
奈良市登美ヶ丘2-1-4
TEL.0742-41-6666
観覧料 一般（大高生含む）1,000円、
小中生500円



上村松園「娘」 松伯美術館蔵

⑦特別展覧会 狩野山楽・山雪

狩野山楽と山雪の画系は、徳川幕府御用絵師となり軽淡な画風を開拓した狩野家本流「江戸狩野」に対し、京の地にとどまり「京狩野」と呼ばれ、永徳の弟子筋によって独自の画風を確立し、幕末まで続いた。山楽は、永徳の豪壮な造形を受け継ぎ、さらに後継の山雪は、水墨画・金碧画にわたって個性的な絵画を生み出した。本展は、彼ら実力派、初の本格的な回顧展。濃厚華麗な障壁画をはじめ、代表作、海外から初里帰り、新発見、初公開をふくむ名品80余件を紹介する。

期 間 5月12日(日)まで
9：30～18：00 金曜日は20：00まで
（入館は閉館30分前まで）
休館日 月曜日、4/30（4/29、5/6は開館）
会 場 京都国立博物館
京都市東山区茶屋町527
TEL.075-525-2473
（テレホンサービス）
観覧料 一般1,400円、高大生900円、
中小生500円



重要文化財「雪汀水禽図屏風」
（右隻）狩野山雪筆

本欄掲載の①～⑧の美術館等の招待券ご希望の方は、電話等で申し込み後、招待券送付用の切手（80円）を日本建築協会事務局までお送りください。

ここに紹介するのは、日本建築協会で入手した図書です。数多くの出版物の中ではほんの一部にしか過ぎませんが、どの本にも著者の思いと夢がこもっています。

図書 建築 crossroads 著者

この人がこのテーマに取り組んでいる。このグループがああ建築人にアプローチした。そんな人物交差点になることを願って、既刊、新刊の図書を紹介します。

喜多俊之 デザインの探訪1969-

喜多俊之 著

学芸出版

2012. 12. 15 刊

A5版 188頁

本体1800円



筆者は、デザインを育てるために日本の物に溢れた住環境の改善を提言する。イタリアと日本の往復の生活を40年続けている筆者は、イタリアが戦争の荒廃から短期間のうちに素晴らしい生活文化を再構築し、デザインという言葉が自然と使われ暮らしの隅々までいきわたっている社会を作り上げた姿を目の当たりにしてきた。デザインとは日常の暮らしに直結したことであり、「日常の暮らし」が大切だと説く。そして、「デザイン」は経済・産業の方向を決める一つの大きなキーワードになっているとも。これからの日本にとって重要なことは技術開発と並んでデザインを育て、世界で一番のものをつくり上げ使いこなし、それを海外への輸出資源とすることだと提案する。

本誌では、これまで培われてきた私たち日本の伝統文化とそこから生まれるイノベーションの大切さ、デザインすることが私たちの明日への資源として存在するということを伝える。

建築21世紀はこれからだ 編集者・写真家300年の視点

馬場璋造・寺松康裕・類州環・中谷正人

神子久忠・松岡満男・古林浩志 著

相模書房

2013. 1. 31 刊

A5版 209頁

本体1800円



現在は政治・経済、社会が閉塞状態にあるなか、一方ではこれほど情報が発達し便利な社会はかつてなかったという考え方もある。人々の暮らしが豊かになったことは認識しつつも、状況はそう簡単には好転せず、深刻であるという思いは共有している。20世紀の巨匠たちの時代と違って、21世紀を支えているのは、コンピュータである。変化のスピードの速さ、それがもたらす状況の急変、さらにそれを駆使した建築が実現できる今、暦の上ではすでに21世紀だが、時代はまだ20世紀の尾を引いているのも確かである。21世紀の建築は変わらざるを得ないとしたら、変わるものと変わらないものをどのように峻別するか。本書は『新建築』で執筆してきた編集・建築写真とジャンルが違う、年代も違う7名の共有する思い「21世紀の建築はどうなるか」について、それぞれがそれぞれの問題意識を文で書いたものである。

建築家と小説家 近代文学の住まい

若山 滋 著

彰国社

2013. 2. 10 刊

A5版 259頁

本体1800円



建築家と小説家はヨーロッパからやってきた新しい概念である。一方は物質による物理的空間の構築を行い、もう一方は言語による意識的空間の構築を行った。しかし、その現れかたには逆の方向性も見られる。建築家は伝統を受け継ぎながらも新しい空間を築こうとし、小説家は新しい表現を求めながらも、慣れ親しんだ景観が失われるのを惜しんだ。文学作品の中に記述された建築の研究を行っている筆者は、常々視覚を支配する「建築の出現性」と、過去の経験に基づく「言語の廻行性」について考えている。「明治・大正・昭和」を一続きの時代と捉え、この時代の建築家と小説家を同時進行的に追うことによって見えてくる「建築からの文学史」「文学からの建築史」から、新しい視野を開く一冊である。

理事会

第9回常任理事会

2月27日(水) 16:05~18:15

出席者 西学会長ほか7名

議事 (1) 平成25年度事業計画(原案)について

(2) 平成25年度収支予算(原案)について

(3) 会員増強について

(4) 役員の推薦依頼について

(5) 3月総会の開催について

(6) 6月総会の日程及び講演のテーマ・講師について

(7) その他

編集委員会

第3回編集・広告企画合同委員会

2月13日(水) 18:00~19:20

出席者 米井委員長ほか4名

議事 「編集委員会」

(1) 3月号特集「東海支部特集」報告

(2) 4月号特集「第19回 会員作品“私の空間作法”」報告

(3) 5月号特集「コミュニティのかたち—人と人とのつながりを再考する—」

(4) 6月号特集「エネルギー無駄使いの見える化」検討

(5) 建材委員会は建材小委員会に衣替えし編集委員会に組み込む。

「広告企画小委員会」

(1) 8月号特集「うめきた」の広告戦略を再検討する。

(2) 各特集号の広告先を検討。

第2回建築計画系分科会

2月15日(金) 19:00~22:00

出席者 大西幹事ほか5名

議事 (1) 9月号特集の企画

第3回建築計画系分科会

2月28日(木) 19:00~22:00

出席者 大西幹事ほか5名

議事 (1) 9月号特集の企画

第9回設備分科会

2月6日(水) 18:00~20:30

出席者 赤澤幹事ほか5名

議事 (1) 「設備の頁」の企画

(2) 見学会の企画

(3) 6月号特集内容の検討

第11回法令分科会

2月6日(水) 15:00~17:00

出席者 平山幹事ほか5名

議事 (1) 法令コーナーの企画

第11回作品作風小委員会

2月28日(木) 19:00~20:30

出席者 稲垣副委員長ほか3名

議事 (1) 作品の掲載状況並びに掲載予定の報告

(2) gallery掲載報告・予定

(3) 私の空間作法 応募作品レイアウト作成。掲載順を決定。

第8回施工材料分科会

2月19日(火) 17:00~18:00

出席者 藤丸幹事ほか4名

議事 (1) 11月号特集の企画

出版委員会

第11回出版委員会

2月21日(木) 18:00~19:15

出席者 井上委員長他7名

議事 (1) プロのノウハウと特装本の経過報告

(2) 進行中のテーマについて

①建築設計・工事監理・施工管理のための品質トラブル予防のポイント

②住まいのメンテナンス

特別委員会

第4回史料研究会

2月27日(月) 18:30~20:00

出席者 山形委員長ほか5名

議事 (1) 今後の連載企画内容の検討

9月号 国立京都国際会館

10月号 リーガロイヤルホテル(大阪)

11月号 瀧定ビル

26年3月号 大阪ガスビルディング

第44回群像(インタビュー)

2月13日(水) 16:00~18:10

出席者 駒井委員ほか3名

場所 ATELIER-ASH

インタビュー ATELIER-ASH

矢田朝士氏

■訂正とお詫び

本誌3月号に、下記の誤りがありました。

一東海支部会員作品2013頁、担当者名一誤(若林 亮・富田昌志/伊藤建築設計事務所)

正(若林 亮/日建設計、富田昌志/伊藤建築設計事務所)

関係各位にご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。

編集委員会(平成25年度)

■副会長

設楽 貞樹

本多 友常

■編集担当理事

浅野真一郎

佐藤 榮一

竹中 統一

立成 良三

松村 孝治

三柴 利雄

吉村 英祐

◎米井 寛

■副委員長

勝山 太郎

■特集小委員会

■計画分科会

★計画系

飯田 匡

鈴木 克彦

高橋 和也

田中 直人

不動 剛志

紅谷 昇平

松田奈緒子

三宅 次郎

△守井 辰

吉村 英祐

★建築計画系

荒木 宏之

△大西 広朗

静 茂夫

下坂 浩和

野田 隆史

三谷 帯介

矢鳴 陽平

米山 剛史

渡部 剛

★インテリア・住宅

川合 隆之

黒柳 亮

小西 貴宏

酒井 雅男

谷垣 浩一

塚口真佐子

ベリー史子

△間瀬 一博

■構造分科会

秋田 智

石田 大三

岸本 光平

小芝 淳一

志摩 好宣

瀧野 敦夫

△角田 耕一

橋本 宗明

松村 健

向井 洋一

◎委員長

○副委員長

△幹事

(順不同)

印刷 2013年3月28日

発行 2013年4月1日

発行人 一般社団法人日本建築協会

大阪府中央区大手前1-7-31

電話 06-6946-6981

印刷所 ㈱中島弘文堂印刷所

定価 1200円(税込)

©「建築と社会」誌の記事の無断転載を禁じます。

電気工事・空調工事・水道衛生工事・消防施設工事
および機械器具設置工事の設計、監理、施工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号 電話 (06) 6441-8231
東京本社 〒102-0071 東京都千代田区富士見2丁目15番10号 電話 (03) 3261-8231
支店 名古屋・福岡
支店 札幌・仙台・新潟・さいたま・横浜・豊田・金沢・京都・神戸・天理・岡山・
広島・高松・熊本
営業所 帯広・函館・青森・秋田・盛岡・福島・山形・前橋・宇都宮・土浦・千葉・
長野・松本・静岡・刈谷・津・岐阜・富山・福井・和歌山・東近江・山口・
松江・松山・高知・徳島・宮若・鳥栖・長崎・大分・宮崎・鹿児島・那覇
海外支店 シンガポール・ホンコン・マニラ (フィリピン)・ベタリンジャヤ (マレーシア)
技術研究所 〒354-0044 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地 電話 (0492) 58-1511

お客様の抱える問題やニーズに
より速やかに、より丁寧に対応できるように

企画・デザイン、制作、製版、印刷

株式会社 **中島弘文堂印刷所**

本社 〒537-0002 大阪市東成区深江南2丁目6番8号
TEL.06-6976-8761/FAX.06-6976-8765
東京事務所 〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1丁目9番地ニュー御茶ノ水ビル601号
TEL.03-3526-5580/FAX.03-3526-5582

<http://www.n-kobundo.co.jp/>

地球環境を守り、100年建築に貢献する

NACL のアルミ表面処理
株式会社 **日本電気化学工業所**

<http://nacl.jp> E-mail: sc@nacl.co.jp

本部営業部 〒560-0036 大阪府豊中市富池西町2丁目7番26号 NACL 42階
TEL (06) 6843-1235 (代) FAX (06) 6853-1632
東京事務所 〒111-0051 東京都台東区蔵前2丁目6-7
TEL (03) 3862-0978 (代) FAX (03) 3862-7098

コンクリートのひび割れ対策に

NETIS 登録済み
KT-040018-V

DENKA
DENKA KAGAKU KOGYO KABUSHIKI KAISHA

高性能膨張材

デニカパワーCSA

JIS A 6202
適合品

特 性

- ・乾燥収縮の低減
- ・自己収縮の低減
- ・水密性の向上 (防水性)
- ・温度ひび割れの低減

主な用途例

- ・合成デッキスラブ
- ・土間スラブ
- ・RC 構造物
- ・自己充填コンクリート
- ・マスコンクリート 他

膨張材以外にも

- ・無収縮グラウト材 (タスコン)
 - ・躯体防水材 (シャガード)
 - ・ポリマーセメントモルタル (RIS シリーズ)
- など、各種混和材 (剤) を
ラインナップしています。

●資料のご請求お問い合わせは・・・

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

浜宗産業株式会社 本社
〒629-3101 京都府京丹後市網野町網野 126
TEL 0772-72-2220 FAX 0772-72-2888
舞鶴営業所・福知山営業所・豊岡営業所

金森藤平商事株式会社 大阪営業所
〒561-0817 大阪府豊中市浜 1 丁目 1 番 7 号
TEL 06-6332-6861 FAX 06-6332-6884

小浦産業株式会社
〒550-0004 大阪府大阪市西区靱本町 1 丁目 14 番 6 号
TEL 06-6443-6181 FAX 06-6443-6270

巷にあふれる家づくりの「情報」。 でも、そのプラン、 本当に住みやすいですか？

——家庭科教師の経験を持つ主婦建築家と考える
暮らしを見つめた住まいづくり

◎目次

- | | |
|-----------------------|----------------|
| 1章 これでもいいのか？日本の家づくり | 3 キッチン |
| 2章 ウソ？ホント？住まいづくりの「常識」 | 4 子ども部屋 |
| 1 家を手に入れるときに | 5 寝室 |
| 2 土地を決めるときに | 6 和室・宿泊室 |
| 3 家を建てるときに | 7 浴室 |
| 4 予算の考え方 | 8 洗面室・脱衣室 |
| 5 相談に行く前に | 9 トイレ |
| 3章 ウソ？ホント？部屋づくりの「常識」 | 10 高齢者への対応 |
| 1 玄関・階段 | 11 収納 |
| 2 リビング・ダイニング | 4章 日本の住まいを見直そう |

著者：井上まるみ

1972年 大学にて食物学を専攻し卒業。三重県立の高等学校教諭として、食物・被服・保育・家庭経営学・住居を教える。退職後、建築・インテリアを学び、建築関連企業に籍を置く。
1987年 住まいの研究室大阪 OFFICE 開設。住宅設計・キッチン設計・キッチンスペシャリスト養成セミナー・リビングセミナー開講。インテリア専門学校講師・NHK 文化センター講師等も務める。2001年 住まいの研究室東京 OFFICE 開設。2013年 住まいの相談室開設・顧問。著書に『プロが教えるキッチン設計のコツ』（学芸出版社）他。



四六判・184頁・本体1800円＋税

学芸出版社

〒600-8216
京都市下京区木津屋橋通西洞院東入

Tel 075-343-0811
Fax 075-343-0810

http://www.gakugei-pub.jp/
E-mail info@gakugei-pub.jp



四六判・220頁
定価2310円(本体2200円)

現場直伝！

躯体工事の 100ポイント

元ゼネコン技術部長がやさしく解説！
施工管理技術者必携の読本

イラスト・写真満載

主要目次

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 技術者としての心構え | 5 型枠工事 |
| 2 鉄筋工事 | 6 土工事・杭工事 |
| 3 コンクリート工事 | 7 PCa工事・PC工事 |
| 4 鉄骨工事 | 8 耐震補強工事 |

日本建築協会(企画)
中川 徹(著)

中川 徹

1946年三重県生まれ。1971年3月名古屋大学工学研究科修士課程修了。同年4月清水建設入社。1992年大阪支店（現関西事業本部）建築技術部長、2005年関西事業本部大阪支店品質長、2011年7月清水建設退社。共著に『建築を志す人びとへ』（学芸出版社、1997年）、『建物の結露トラブル事例と解決策』（学芸出版社、2003年）。



本文イラスト：石田芳子

学芸出版社

〒600-8216
京都市下京区木津屋橋通西洞院東入

Tel 075-343-0811
Fax 075-343-0810

http://www.gakugei-pub.jp/
E-mail info@gakugei-pub.jp